



聖家族 (ルカ 2:22-40)

イエスは、ご自分が触れるすべてを聖別してくださった

今年12月31日が聖家族の祝日となりました。一年納めの日が日曜日でした。中田神父にとってまるまる一年ではありませんが、皆さんの祈りとお支えによって何とか今日を迎えることができました。感謝いたします。8ヶ月で、何年分もの経験をさせてもらいました。最近気づいてビックリしたのは、もみあげが白くなっていました。苦労も経験させてもらったということでしょうか。

この一年でいちばん新しさを経験したのはミサの儀式書です。皆さんはずいぶん慣れてきたでしょう。司祭たちは儀式書の細かいところまで注意して唱えるので、この一年大変な思いをして唱えてきました。助任司祭のように若くて記憶力も衰えていなければ、変更点にもすぐ慣れていくかも知れません。しかし私のような30年選手には、今回の儀式書の変更にはずいぶん手こずりました。何せ30年同じ唱え方をしてきたことを切り替えるわけですから簡単ではありません。

今もって悔しいのは、これまで顔を上げて唱えていた部分も、顔を上げてささげることができない、ということです。去年までは、皆さんの顔を見ながら、第二奉献文を唱えることができていたのです。「まことにとうとくすべての聖性の源である父よ・・・」ところが今は儀式書を見て唱えないと不安になります。唱え始めて一年しか経っていないからです。30年選手の威厳も貫禄も見せられない。そこがいちばん悔しいです。もっと上の先輩は、もっと悔しがっていることでしょう。

ところで、奉献文の中でパンの聖別の言葉があります。「皆、これを取って食べなさい・・・」司祭は、大きなホスチア一枚だけを手に取って唱えています。この聖別の言葉で、祭壇の上にあるすべてのホスチアが聖別されます。イエス様は、司祭を通して、触れている物だけでなく、祭壇上のすべてのものを聖別してくださるのです。

今日、福音朗読はイエス様が神殿で献げられる場面の朗読でした。中田神父はここにも、パンの聖別と同じことが起こっている。そう考えたのです。律法によれば、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」と書いてあるわけです。出エジプト記13章2節「すべての初子を聖別してわたしにささげよ。イスラエルの人々の間で初めに胎を開くものはすべて、人であれ家畜であれ、わたしのものである」これがもともとなっているのでしょうか。

しかし、神の独り子イエス・キリストの神殿奉献は、これまでとは違ってイエスによって触れるものすべてが聖別された、そう考えてみたのです。幼子を抱いて、ヨセフとマリアが神殿に出向きます。幼子イエスによって、ヨセフとマリアが聖別された。両親が連れて来た幼子を、シメオンが抱きました。シメオンは幼子イエスによって聖別されました。のちに女預言者アンナも、幼子イエスに聖別されます。もっと言うなら、

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。
エルサレム神殿と、すべての聖所が、イエスによって聖別された。司祭を通してイエスが祭壇上のすべてのパンを聖別なさるように、イエスによって聖別された。私はそう考えたのです。

さてこのイエスによって聖別されるすべてのの中に、皆さんは含まれないのでしょうか。説教の流れをよくご理解の皆さんでしたら分かるでしょう。私たちも、幼子イエスによって聖別され、聖家族に加えられるのです。聖体拝領が可能なら、拝領することで私たちが聖別されます。もし何らかの事情で聖体拝領できない人でも、ここに集まっていることで聖別される。そう言って良いのではないのでしょうか。

もちろん、幼子イエスによって私たちが聖別されたとしても、私たちはいつか罪によって聖なる状態を失ってしまいます。それで私たちは、頻繁にミサに与り、聖体を拝領するのです。12月10日に触れましたが、日曜日だけミサに参加していた人は年に一度でも良いから、平日のミサ参加を考えてください。あなたの生活全体を、イエスは聖なるものとしてくださるはずです。

誕生日や、結婚記念日、年に一度の日々にぜひ検討してください。私たちはイエスによって聖なるものとされ、聖家族に加わる。このことを今週の糧として持ち帰りましょう。説教が長くなってしまいました。

神の母聖マリア(ルカ 2:16-21)